

## シカネットにおける「<sup>う</sup>宙かせ張り」の実施検証について

九州森林管理局 西都児湯森林管理署  
都農森林事務所森林官 田中 善成

### 1 課題を取り上げた背景

近年の野生獣害による植栽木等への森林被害は増加傾向にあります。

今後、主伐・再造林を迎えるにあたり、効果的・効率的に進めるためには育林コストの低減が課題です。

こうした中、獣害対策のシカネット、ツリーシェルター等はコストが嵩む要因であることから、今回、材料費・設置費・メンテナンス費等の低減が期待できる新たなシカネットの設置方法を考案し、検証しました。

### 2 取組の経過

児湯郡川南町尾鈴国有林1055お1林  
小班の平成27年度誘導伐実行箇所において、通常のシカネットを設置した造林地と隣接して、西都児湯森林管理署  
発案の「宙かせ張り」を設置しました。

「宙かせ張り」は縦50m×幅32m(約  
0.16ha)において、シカネットと廃棄  
処分するポールを使用し、両端を杭で  
結束することでネット自体を宙かせ  
(両側地上高30cm)シカの侵入を防御  
ができるかを検証しました。

(写真-1及び写真-2参照)

また、検証する中で、ネットの高さを調整したもの及びネットを平行  
に宙かせた「2重張り」について、追跡検証を行いました。

自動撮影カメラにより、「宙かせ張り」を設置後のシカ等の侵入動向  
の把握も行っています。



写真-1 支柱の設置状況

### 3 実行結果

材料費・設置費については大幅な削減効果が期待できることが判かりました。自動撮影カメラを設置し経過観測を行った結果、地上高約30cmの宙かせ張り箇所において野兎等の小動物が1ヶ月を経過した時点で侵入し、さらに4ヶ月を経過した時点でネットのたるみによりシカが林内に侵入したことが確認されました。

侵入した経路を特定した結果、支柱が折損し、ネットが地面と接したことと及びロープの結束のゆるみにより、抵抗感が損なわれたために侵入したと考えられます。



写真-2 宙かせ張り全景

### 4 考察

今回は、支柱杭に廃棄ポールを使用したことで強度不足により破損・折損したことや、ロープの結束(結び目)がずれ落ち、必要な高さを維持できなかったことによりネットが地面に接触しシカが侵入したことを踏まえ、支柱杭は一定の強度を確保している既製品の角杭を使用し、ロープとの結束部箇所にはずれ防止措置を講じる必要があることが判明しました。

また「宙かせ張り」施工箇所の周囲を精査した結果、ネットが地山より宙いた状態が確保されている箇所からの侵入は見られませんでした。宙かせ張りにおいてはシカが侵入しようと試みるも、諦めて引き返すことから一定の効果があつたのではと推測されます。

今回の「宙かせ張り」は一考察であり、各種部材や設置方法のさらなる検討を行い、植栽時に係る更なるコストの低減化を目指したいと思っています。